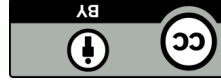


✎ Nina Orange
🔍 Wiehan de Jager
📧 Kohei Uesaka
🗣️ Japanese
📖 Level 4

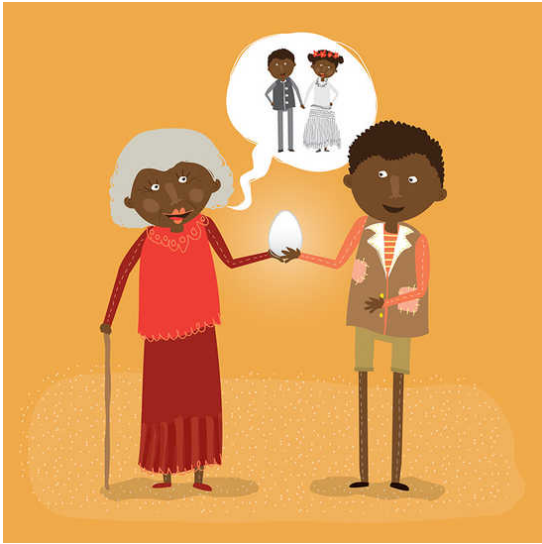


ブーシーのお姉さんが言ったこと
と

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 International License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>



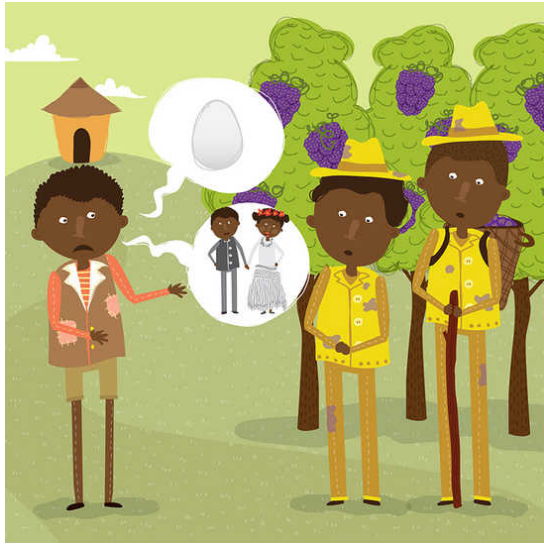
ある日の朝早く、ブーシーのおばあちゃんはブーシーにお遣いを頼みました。「ブーシー、この卵をお父さんとお母さんに届けてくれないかい？二人はこの卵で、お前のお姉ちゃんために大きなケーキを作りたいんだ。」



お父さんとお母さんのところへ行く道の途中、ゾーシーは果物狩りをしている二人の少年に出会いました。少年はゾーシーから卵を取り上げ、木に向かって投げつけてしまいました。卵は割れてしまいました。



ゾーシーのお姉さんは少しの間考えて、それから言いました。「私の弟、ゾーシー。私はほんとに贈り物のことは気にしてないわ。それどころかケーキのことでさえ気にしてない！みんなが揃って、私はそれだけで嬉しいわよ。さあ、カッコいい服に着替え、今日をお祝いしましょう！」そして、ゾーシーはその通りにしました。

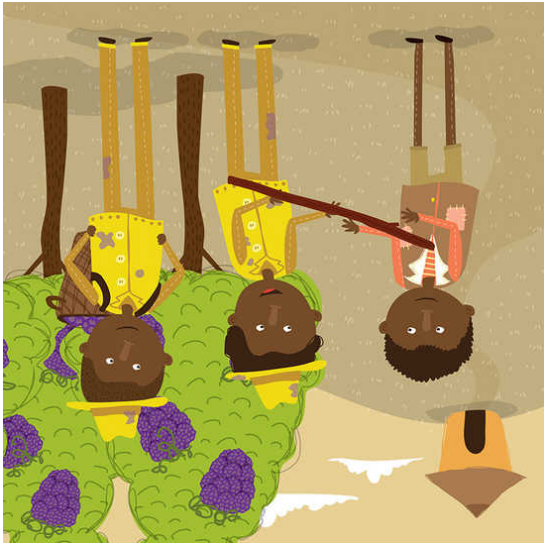


「何てことしてくれるんだ!」と言って、ブーシーは泣き出しました。「これはケーキのための卵なんだ。そのケーキは僕のお姉ちゃんの結婚式のためのものなんだ。ウェディングケーキが無かったら、お姉ちゃん何て言うかなあ...。」



「どうしよう。」ブーシーは泣き出してしまいました。「大工が藁のお詫びにくれた贈り物の牛は逃げちゃった。大工は、果物狩りの少年からもらったステッキを折ったお詫びに藁をくれたんだ。果物狩りは、ケーキに使う卵を割ったお詫びにステッキをくれたんだ。そのケーキは結婚式のためのものだったんだ。今、卵も、ケーキも、それから贈り物も無いよ...。」

少年たちはゾーシーをからかったことを謝り、「僕たちはクッキーを作ることができないけど、代わりにこのクッキーを君のお姉さんにやるよ。」と言い、クッキーを渡しました。ゾーシーは再び歩き始めました。



けれど牛は、夕食の時間になると農家おじさんのもとへ帰ってしまいました。そしてゾーシーは道に迷ってしまいました。ゾーシーがお姉さんのところに着いたのはだいぶ遅かったので、とくにパイプイーは始まっていました。





道の途中、ブーシーは家を建てている二人の男に出会いました。男の人はブーシーに「その丈夫そうな木を使ってもいいかな？」と聞きました。しかしそのステッキは家を建てられるほど十分に強くはなく、折れてしまいました。



牛は食いしん坊を謝りました。農家おじさんは、牛がお姉さんへの贈り物としてブーシーに付いて行くことに賛成しました。そしてまたブーシーは歩き始めました。



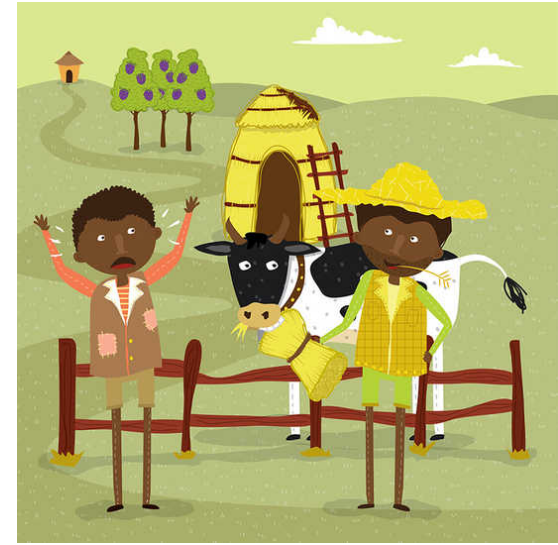
「何てことしてくれるんだ！」とゾーシーは泣き出
 しました。「そのスツッキはお姉ちゃんへの贈り物
 なんだ。果物狩りの少年が、ケーキに使う卵を割っ
 たお詫びにくれたんだ。そのケーキはお姉ちゃんの
 ウェディングケーキだったんだ。卵も、ケーキも、
 それから贈り物も無い。お姉ちゃん何て言うたろ
 う...」



「何てことしてくれるんだ！」とゾーシーは泣き出
 しました。「あの臺はお姉ちゃんへの贈り物だった
 んだ。大工が、果物狩りの少年からもらったスツ
 キを折ったお詫びにくれたんだ。果物狩りの少年
 は、お姉ちゃんへのケーキに使う卵を割ったお詫び
 にスツッキをくれたんだ。そのケーキは、お姉ちゃ
 んの結婚式のためのもだったんだ。そして今、卵
 も、ケーキも、そして贈り物も無い。お姉ちゃん何
 て言うかなあ...」



大工は、「僕らはケーキを作れないけど、代わりにお姉さんにこの藁をあげよう。」と言って、ステッキを折ったことを謝りました。そしてブーシーはまた歩き始めました。



道の途中、ブーシーは農家おじさんと牛に出会いました。「何て美味しそうな藁なんだ、少しかじっていいかな？」と牛は尋ねました。しかし藁はとてもおいしく、なんと牛は藁を全部たいらげてしまいました。